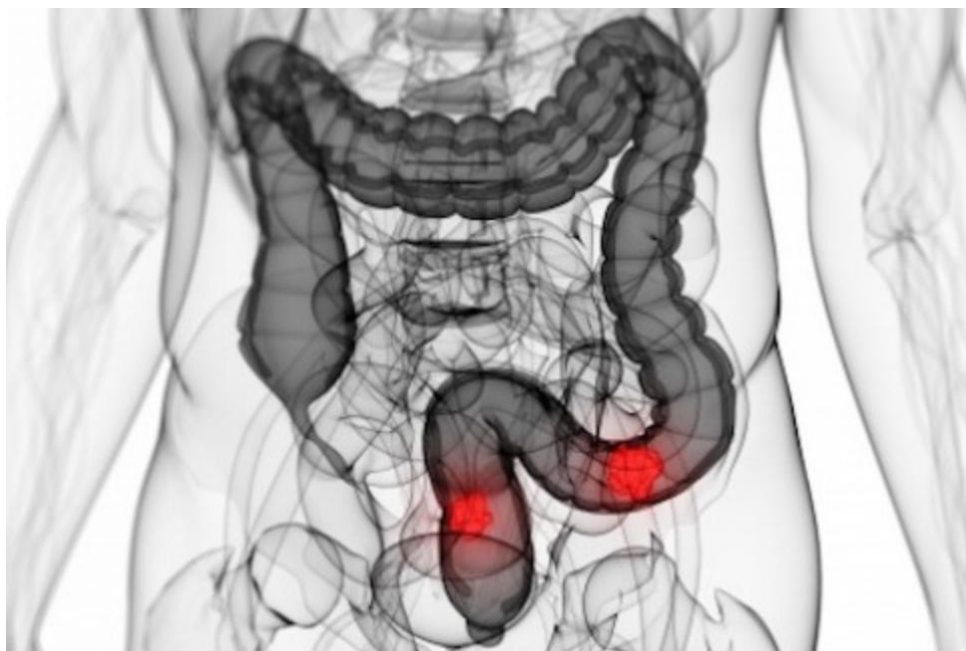


# メトホルミンによる大腸ポリープ抑制効果と大腸内視鏡検査について

横浜市立大学肝胆膵消化器病学の研究グループは、**低用量メトホルミン**が大腸内視鏡ポリペクトミー後の大腸ポリープ・腺腫の新規発生を抑制することを確認し、研究結果がLancet Oncology 誌に掲載されました。



大腸内視鏡ポリペクトミー1年後の大腸ポリープ・腺腫の新規発生率は、**低用量メトホルミン群** 38%、プラセボ群 56%で、メトホルミン群で有意に低い結果となりました。また、大腸腺腫の新規発生率はそれぞれ31%、52%で、同じく**メトホルミン群**で有意に低い結果となりました。



また、一人あたりの平均ポリープの数はメトホルミン群 0.62 個、プラセボ群 1.06 個で、メトホルミン群で有意に少ない結果となりました。

## 大腸内視鏡検査と低用量メトホルミン

の定期使用を組み合わせることにより、大腸がんに対するさらなる予防効果が期待されます。

